

徳川家康と息子たち

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 松平家史料展示室
- 会期 令和5年2月9日(木)
～4月9日(日)
- 休館日 3月13日(月)

征夷大將軍せいゐたいしょうぐんとなり江戸幕府を開いた天下人・徳川家康(1542-1616)。彼には二男である福井藩祖・結城秀康を含む11人の息子たちがいました。本展では資料をもとに家康の事績を振り返るとともに、個性的な息子たちについてもご紹介します。

先將軍徳川家康代像附略系(当館蔵)



第1章 天下人・徳川家康

家康の誕生

徳川家康は天文11年に三河国みかわのくに(愛知県東部)の小領主・松平広忠ちやくなんの嫡男として生まれました。家康はまず尾張国おわりのくに(愛知県西部)の戦国大名・織田信秀(信長の父)の人質となり、次いで人質交換により駿河国駿府(静岡県静岡市)を本拠とする今川義元の人質となりました。その後、義元のもとで元服、今川一族の娘・築山殿つみやまどのめとを娶って今川一門に準ずる部将となります。

戦国大名・徳川家康

永禄3年(1560)の桶狭間の戦いで義元が討たれたことをきっかけに、家康は三河国に帰って領国支配を進め、織田信長と同盟を結びました。永禄6年には三河一向一揆が起こるものの鎮圧に成功し、永禄9年には三河国を平定します。

永禄11年、家康は甲斐国甲府かいのくにこうふ(山梨県甲府市)を本拠とする武田信玄と連携して、今川氏の領国である遠江国ととうみのくに(静岡県西部)に侵攻します。しかし、家康と信玄の関係は同盟者の信長を巻き込む形で悪化し、元亀3年(1572)に信玄は徳川領国へ侵攻しました。その後は三方ヶ原みかたがはら(静岡県浜松市)の戦いで大敗するなど武田勢に苦しめられますが、天正10年(1582)の武田氏滅亡後にはその旧臣や軍制などを活用しています。

武田氏の滅亡と同じ年に、信長が本能寺の変により死去します。その際には信長の勧めにより堺などを見物して京都に帰る途中だった同盟者・家康も襲撃を受ける危険があり、危機的状況に陥りますが、「伊賀越え」を強行して窮地を脱しました。そうした中で家康は領国を拡大し、三河・遠江に加えて武田氏滅亡後には駿河を、本能寺の変の後には甲斐・南信濃しなの(長野県南部)を支配する大名となりました。

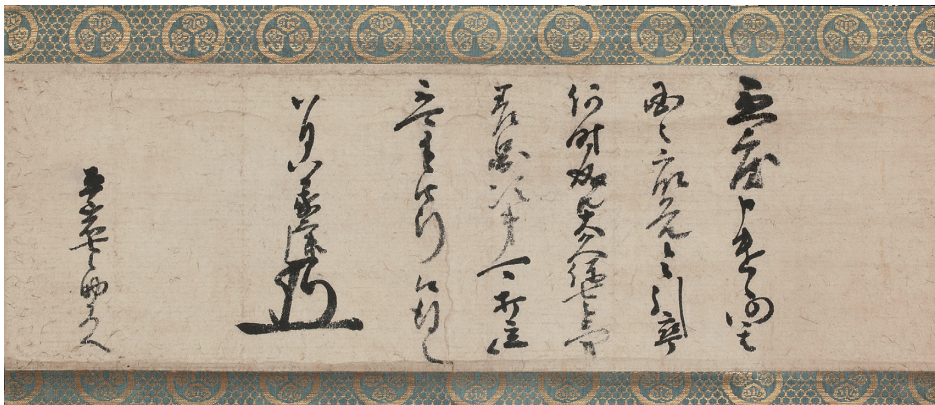
羽柴(豊臣)秀吉への臣従と関ヶ原の戦い

天正12年、家康は信長の二男・信雄のぶかつ(のぶお)と連携し、小牧・長久手の戦いで羽柴秀吉と対決します。徳川方は羽柴方の別働隊に圧勝するなど善戦しますが、次第に兵力に勝る羽柴方が優位となりました。家康は信雄とともに秀吉と和睦し、最終的にその家臣となりました。

慶長3年(1598)に秀吉が死去すると、豊臣政権内で五大老筆頭となっていた家康の権限が増大し、政治を主導するようになりました。慶長5年に会津かいづ(福島県会津若松市)を本拠とする上杉景勝かげかつを攻めるために家康が出陣すると、石田三成や大谷吉継が挙兵し、毛利輝元などを味方に政権奪還を図ります(以下、西軍と呼称)。同年には関ヶ原の戦いで家康率いる東軍と西軍の決戦があり、東軍が大勝します。この戦いは、徳川氏が天下の実権を握り、幕藩体制を確立させていくきっかけとなりました。

江戸幕府の基礎を固める

慶長8年に家康は征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開きます。これは豊臣政権の五大老の一人という地位から脱し、名実ともに武家の棟梁となるための重要な契機となりました。その後、慶長20年（元和元年、1615）には大坂夏の陣で豊臣氏を滅亡させるなど、徳川政権を盤石にし、翌元和2年に死去しました。



平岩親吉宛徳川家康書状（越葵文庫 当館保管）

第2章 家康の息子たち

徳川家康には11人の息子たち（2人は早世）がおり、家康が一大名から天下人へと成長する過程でそれぞれが重要な役割を果たしています。本章では家康の息子たちのうち、二男・結城秀康、三男・徳川秀忠、六男・松平忠輝、十男・徳川頼宣ゆかりの資料を展示しています。

○結城秀康（1574-1607）は小牧・長久手の戦いの講和に際して羽柴（のち豊臣）秀吉の養子となり、やがて元服して秀吉の「秀」と家康の「康」の字をとって羽柴三河守秀康と名乗ります。秀吉に実子が誕生すると、天正18年（1590）に結城晴朝の養子となりました。慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いに際しては実父・家康に命じられ、下野国宇都宮（栃木県宇都宮市）で上杉景勝の南下を抑えました。関ヶ原の戦いの後に越前国を拝領して北庄城（のち福井城）と城下町の再建に着手、慶長11年にほぼ完成したと伝わります。

○徳川秀忠（1579-1632）は父・家康から將軍職を譲られて二代將軍となります。これは徳川氏が將軍として政権を世襲することを天下に示すことが目的でした。秀忠は異母兄・秀康のことを気にかけていたようで、秀康に宛てて送った書状が多く残されています。



徳川秀忠画像（複製）
（福井市春嶽公記念文庫 当館蔵）

○松平忠輝（1592-1683）は松平一族の長沢松平家を継ぎ、のちに伊達政宗の娘を娶っています。越後国高田（新潟県上越市）の藩主となりますが、元和2年（1616）に改易・配流されました。改易後、忠輝の旧臣である松平正世がのちに福井藩三代藩主となる松平忠昌に仕え、子孫は福井藩の家老などを務めています。

○徳川頼宣（1602-1671）は紀伊国和歌山（和歌山県和歌山市）の藩主となり、御三家・紀伊徳川家の祖となりました。福井藩は紀伊徳川系の御三卿や十一代將軍・徳川家斉から養子を迎えており、御三卿・田安德川家出身の十六代藩主・松平慶永（春嶽）も頼宣の子孫にあたります。

【主要参考文献】

福井市編『福井市史 通史編2 近世』福井市、2008年
柴 裕之『[中世から近世へ] 徳川家康 境界の領主から天下人へ』平凡社、2017年
藤井讓治『徳川家康』吉川弘文館、2020年
本多隆成『徳川家康の決断』（中公新書2723）中央公論新社、2022年

次回の展示

松平家史料展示室 企画展「子どもの節句とお人形」

令和5年4月13日（木）～6月4日（日）

展示解説シート No.156

令和5年2月9日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489

担当 中西 健太

印刷 備宮本印刷